

〈福祉〉とは、幸せ、豊かさ。それを表現するヒントを教えてくれる人・物・事を、次の4つのキーワードに沿って紹介します。

- # コミュニケーション ▶▶▶ 心理的な壁をなくす、やさしさを育む
- # 暮らす ▶▶▶ 安心できる居場所や暮らしをつくる
- # はたらく ▶▶▶ 自分らしく活動する、成長する
- # 食と健康 ▶▶▶ 食を大切に健やかに生きる

#暮らす

“他人以上、家族未満”の 人たちでつくる暮らし

～高齢者がひとりでも安心して暮らせる「ノビシロハウス」の日常～

※2026年4月号掲載「File58 “安心できる暮らし”を売る不動産屋さんが大切にしてきたこと」の続編です。

孤独死や認知症の課題を 仕組みで解決する

神奈川県藤沢市にある「ノビシロハウス亀井野」(以下、ノビシロ)は、不動産仲介会社を営む鮎川沙代さんが、「資産があっても高齢ということで部屋を貸してもらえないケース」に直面したことがきっかけで2021年につくった、多世代型コミュニティ住宅。「アパート(住宅)+コミュニティスペース+地域医療の拠点」の集合体だ。

多くの貸主が懸念しているのは、高

齢者の孤独死や認知症。その課題を解決する仕組みが、ノビシロにはある。若者は高齢者の半額の3万5000円で入居できる代わりに、ソーシャルワーカー(資格をもつ専門職ではなくノビシロでの呼称)として、定期的な高齢者への声かけと、月に1回「お茶会」を主催することになっている。つまり、高齢者の“見守り”をする役割を担う。そして高齢者は、お茶会に必ず参加することになっている。

居室はバリアフリー設計され、入居者の生活や体調の異変を察知するための

センサーが設置されている。それだけでなく、居住棟の隣の建物の1階にはカフェとコインランドリー、2階には訪問診療クリニックが入っている。“あそこに行けば、誰かに会える”という場所があるというのは、高齢者だけでなく、若者にとっても心強いに違いない。

ノビシロを運営する鮎川さんは、こう話す。

「譲れないことは、ノビシロの仕組みや理念に共感してくれる入居者で成り立たせること、それだけです。私たちは入居者の暮らしをサポートしますが、実

①ノビシロハウス亀井野(以下、ノビシロ)で毎月1回開かれる、入居者たちの「お茶会」の様子。入居希望者も参加する。②③ノビシロは「アパート(住宅)+コミュニティスペース+地域医療の拠点」の集合体。South棟とNorth棟で構成され、South棟は、20㎡の8部屋を備えた居住棟で、North棟には、1階に入居者でなくても利用できるカフェとコインランドリー、2階に訪問診療クリニックが入っている。

